

「 優しく、賢く、逞しく 」 ～ 未来を切り拓く生徒の育成 ～										本年度の重点目標 「 全教職員で共通理解を図り、組織として徹底する ～脱学年セクト～ 」		
学校自己評価（達成状況）【 A：達成している B：おおむね達成している C：あまり達成していない D：達成していない 】												
観点	項目	教職員	保護者	生徒	今年度評価（点数は評価指標の平均）					取組（達成）の状況	課題と改善方策	学校自己評価及び改善方策の適正さの評価
					達成値	教職員	保護者	生徒	評定			
(1)いのちと人権を守る教育	①確かな生徒理解に基づく生徒指導	①教育相談等を通じて、一人ひとりの生徒の内面を共感的に理解し、信頼関係に基づいた指導に努めている	②学校は、お子さんの悩み等内面の共感的理解に努め、適切な指導をしている	②先生は、自分の悩みや困ったことなどを理解し、丁寧に指導されている	4.1	4.5	4.2	3.6	A	A ○達成している状況である。 ・(1)③の「特別支援教育の充実」については、他の項目に比べて若干数値が低い傾向にある。	・特別支援教育については、教職員の理解と力量に差がある。特別支援学級の生徒及び通常学級に在籍する支援を要する生徒への個別支援について、一層の研修が必要である。 ・生徒指導上の課題について、SC、SSW、家庭相談員等専門機関との連携は定着してきた。 ・個別支援カルテの活用が定着し、いじめや生徒指導上の問題について情報共有及び対応のスピードが上がった。今後、引き継ぎでの活用を進める。 ・問題行動等への指導が入りにくい生徒に対して、担任だけで抱え込まず、学年団及び学校全体で組織的に指導していく必要がある。	・特別支援教育についての自己評価が低い教員については、自己研鑽に努めてほしい。また、特別支援学級を担当する時間を増やす等関わりを増やして、意識を高めてほしい。 ・特別支援教育について自己評価が低い教員については、なぜ、その評価になったのか聞き取りや分析が必要ではないか。
	②いじめの未然防止・組織的対応	②いじめ防止基本方針に基づき、迅速かつ組織的な対応に努めている。また、生徒支援カルテシステムによるきめ細やかなサポートに努めている	③学校は「いじめを許さない」という姿勢で早期発見に努めるとともに、保護者と連携をとりながら適切に指導を行っている	③先生は、いじめは許さないという姿勢のもと、いじめが発生した場合は、適切に指導されている	4.1	4.5	4.0	3.9	A			
	③特別支援教育の充実	③個々の生徒の発達特性を理解し、個別のニーズに応じて個別支援にあたっている			3.9	3.9			B			
	④不登校支援の充実	④不登校傾向の生徒に対して、組織的に適切な支援を行っている			4.1	4.1			A			
	⑤危機管理体制の確立と安全の確保	⑤「初期対応が全て」「危機管理のさしすせそ」の意識のもと対応している また「報・連・相」の徹底を図っている			4.4	4.4			A			
	⑥専門機関・関係機関との連携	⑥学校だけでは指導困難な生徒支援に当たり、専門機関や関係機関と連携して取り組んでいる			4.3	4.3			A			
(2)豊かな心	①温かい人間関係づくりの推進(1)	⑦生徒一人ひとりの居場所がある学級づくりに努めている	①お子さんは、学級で楽しく過ごしている	①学級で楽しく過ごしている	4.1	4.1	4.1	4.3	A	A ○達成している状況である。 ・(2)⑨「多可町（八千代）」が好きである」という設問については、教職員のふるさと教育への取組の数値が3、4と低い傾向にある。	・道徳については、学年間で取組の差が減少した。前期に比べて生徒の授業への取り組みについて、数値が改善されている。（＋0.1） ・キャリア教育については、コロナ禍ではあったが1週間の町内各地の事業所でのトライやるウィークを実施することができた。また、1年生ではふるさとキャリア教育を実施することができた。生徒のキャリア教育の数値についても前期に比べて改善している。（＋0.2） ・各学年ごとでの学習の系統性が弱いことが課題であったが、1年生職業調べとふるさとキャリア教育、2年生トライアやるウィーク、3年生進路学習という中学校3年間を通し系統だったキャリア教育プランへの再構築を行うことができた。 ・ふるさと教育の項目では、教職員の数値が低く出ている。日々の指導の中で、ふるさと教育といったあたりまで意識をする余裕がないように思われる。それぞれの取組の中で、ふるさと教育の視点を大切にして取組を進めたい。	・ふるさと教育については、生徒の数値は低くはない。教員が意識していなくても、結果としてふるさとを愛する心が育っているならば、教員もその取組に自信を持ってよいのではないかと。 ・教職員への設問がこれよりよいのか。もう少し評価しやすい設問に変更する方がよいのではないかと。 ・そもそも全ての子どもにもふるさとを愛する心を育てなくてはならないのか。もっとこういう町であってほしいと思うのが自然ではないか。
	②温かい人間関係づくりの推進(2)	⑧特別活動に、生徒一人ひとりが主体的に取り組み、自立性や社会性を育めるよう計画し、実践している	④お子さんは、学校行事や生徒会活動に意欲的に取り組んでいる	④学校行事や生徒会活動に意欲的に取り組んでいる	4.2	4.4	4.0	4.2	A			
	③人権意識の向上(1)	⑨「人権教育コアカリキュラム」を基盤として、すべての教育活動を通じて、自尊感情や他者への思いやり等の人権意識の向上に努めている	⑤お子さんは、自分のことと他人のことを大切にしている	⑤自分のことと他人のことを大切にしている	4.3	4.3	4.3	4.3	A			
	④人権意識の向上(2)	⑩いじめとは何かを理解させ、いじめにつながらないように、相手の気持ちを考えながら生活するよう指導している		⑥いじめにつながらないように、相手の気持ちを考えながら、生活している	4.4	4.5		4.3	A			
	⑤道徳教育の充実(1)	⑪社会生活を送る上で必要な規範意識を育む教育実践に努めている	⑥お子さんは、社会のきまりやマナーなどを守って生活している	⑦社会のきまりやマナーなどを守って生活している	4.3	4.3	4.3	4.4	A			
	⑥道徳教育の充実(2)	⑫道徳の授業を確保し、指導方法の工夫改善に努めている		⑧道徳の授業に一生懸命取り組んでいる	4.0	4.2		3.9	A			
	⑦キャリア教育の推進(1)	⑬「トライやる・ウィーク」をはじめとする体験活動等を通じて、生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てるキャリア教育の充実 に努めている	⑦お子さんは、働くことの意義を理解し、将来の夢や目標の実現に向けて努力している	⑨働くことの大切さを理解し、将来の夢や目標の実現に向けて努力している	4.1	4.5	3.7	4.1	A			
	⑧キャリア教育の推進(2)	⑭生徒の将来を見通した長期的な視点に立った上で、学年に応じた柔軟性のある進路指導を行っている	⑧学校は、学年に応じた適切な進路指導を行っている	⑩卒業後の進路について、目標を持っている	4.0	4.2	4.1	3.8	A			
	⑨ふるさとを誇りに思う心の育成	⑮教科や道徳、特別活動や総合的な学習の時間（ふるさとキャリア教育、楽園訪問、トライやるウィーク、グリーンキャンペーン等）の指導を通して、ふるさとを愛し、誇りに思う気持ちを育てるよう指導している		⑪多可町（八千代）が好きである	3.6	3.3		3.9	B			
									4.1			
(3)確かな学力	①学力向上（授業改善）	⑮授業内容が理解できるよう、工夫して授業を行っている	⑨お子さんは、学校の授業の内容が理解できている	⑫学校の授業の内容が理解できている	3.8	4.2	3.4	3.6	B	B ○概ね達成している状況である。 ・(3)①「学力向上（授業改善）」については、授業内容の理解という点で、生徒、保護者ともに評価が低くなっている。 ・(3)⑧「読書活動の充実」については、3者とも評価が著しく低い状況にあり、なかなか改善していない。 ・(3)⑨「家庭学習の習慣化」については、生徒、保護者の数値が低くなっている。	・特に課題が見られるのが、授業の理解、家庭での読書、家庭学習の3つである。 ・学習指導要領が改訂され、「主体的・対話的で深い学び」を目指して授業スタイルの改善が進んでいる。課題解決学習のスタイルの授業が増えている。一方で、従来の講義形式の受け身の授業スタイルを好む生徒もあり、段階的な授業改善が必要である。 ・家庭学習については、「家庭学習の手引き」の内容をスタディサブリの活用を盛り込み、改訂を行った。自主学習ノートについては廃止をし、予習復習について、家庭学習で何をすべきかを明確化した。スタディサブリについては学力高い生徒ほど家庭学習で取り組む傾向にある。 ・全体的に学力に自信がない生徒が多い傾向にある。学びを定着させるためにも、予習・復習が必要（特に復習）であるが、宿題をきっちりやってもこなない生徒が少なからずいる。自分一人で学習を進める力が弱いと思われる。 ・家庭での読書については、基礎学力の向上及び授業時数の確保のため、朝の読書を廃止してスタディサブリに切り替えたことの影響も大きい。町の読書週間とタイアップして、読書週間の取組を行う。図書館アドバイザーに月2回程度入っていったき図書室の環境改善を図る等の取組を進めたが、読書離れにストップをかけることはできていない。教職員の呼びかけも十分ではない。	・新学習指導要領の求める学力は、かなり高度である。しかし、これは社会の求める学習スタイルでもある。人は人との関わりが必要。教員もこの学びについてさらに研鑽が必要なのではないかと。 ・1～3年生までの3年間というスパンでこの学力の積み上げができればよいのではないかと。また、取組がはじまっただばかりで、生徒も戸惑っていると思う。徐々にあがっていけば良い。 ・スタディサブリについては、最初だけではなく、繰り返しその活用方法について生徒に説明をする必要があるのではないかと。 ・宿題のできていない生徒については、がんばりタイムや学習相談のようなフォロー体制が日常的にあればよいが、
	②学力向上（基礎基本）	⑪朝の学習にしっかりと取り組ませ、学力向上に努めている		⑬朝の学習にしっかりと取り組んでいる	4.0	3.8		4.2	A			
	③ユニバーサルデザインの授業	⑯「ユニバーサルデザイン」の視点に立ち、共通した授業スタイルにより、すべての生徒にとってわかりやすい授業になるように工夫している		⑭授業では、「めあて」や「授業の流れ」が示されている	4.1	4.2		4.0	A			
	④主体的・対話的で深い学び(1)	⑰研究テーマ「主体的・対話的な深い学びを目指して」のもと、研究・研修体制を確立し、研究授業や職員研修の充実を図り、各自の資質・能力の向上に努めている			4.1	4.1			A			
	⑤主体的・対話的で深い学び(2)	⑱授業の中で、ペアやグループで話し合ったり、協力して課題を解いたりすることに積極的に取り組ませている		⑮授業の中で、ペアやグループで話し合ったり、協力して課題を解いたりすることに積極的に取り組んでいる	4.4	4.5		4.3	A			
	⑥主体的・対話的で深い学び(3)	⑲授業の中で、自分の考えや意見を書いたり、学習したことを自分の言葉でまとめる活動を通して、学習の深化を図っている		⑯授業の中で、自分の考えや意見を書いたり、学習したことを自分の言葉でまとめる活動に取り組んでいる	3.9	4.0		3.8	B			
	⑦ICTの活用	⑲授業の中で、積極的にクロームブックやデジタル教科書等の活用を図っている		⑰授業では、クロームブックやデジタル教科書などを活用している	4.1	3.8		4.3	A			
	⑧読書活動の充実	⑲生徒が読書に励むよう、積極的に働きかけを行っている	⑩お子さんは、家庭でよく本を読んでいる	⑭家庭や学校でよく本を読んでいる	2.3	2.3	2.2	2.3	D			
	⑨家庭学習の習慣化	⑳スタディサブリやワーク・問題集、テスト計画表等を活用して、生徒の自主的・計画的な学習の充実を図っている	⑪お子さんは、ワーク・問題集やスタディサブリ等を活用して、家庭学習に自主的・計画的に取り組んでいる	⑰ワーク・問題集やスタディサブリ等を活用して、家庭学習に自主的・計画的に取り組んでいる	3.5	3.9	3.4	3.3	B			
									3.8			
(4)健やかな体	①基本的な生活習慣の確立	㉑正しい生活習慣や食習慣を身に付けさせ、自らの健康管理ができる生徒の育成に努めている	⑫お子さんは、正しい生活習慣や食習慣が身に付いている	⑰正しい生活習慣や食習慣に気を付けて生活している	3.7	3.6	3.7	3.8	B	B ○概ね達成している状況である。 ・(4)⑤基本的な生活態度の確立（メディア）」については、低い数値となっている。生徒、保護者評価の数値が低くなっている。	・タブレットやスマホ等、家庭でのメディアへの向き合い方について課題がある。春先に家庭でのルールを作っているが、なかなか守られていない現状がある。ゲームや動画視聴の時間が長い傾向にある。メディアの活用について、学校でも11月に生徒対象に研修会を実施した。PTA等でも研修が出来ればよいと考える。 ・部活動については、積極的に参加している生徒が大半である。生徒数の減少により、運営が厳しくなっている現状がある。今後、部員が少ない場合は、多可町内の中学校との合同チームを編制して大会に参加する。	・親も含めて、家庭ではスマホばかりの環境である。家庭への働きかけは難しい。引き続き、町とタイアップして啓発を進めていくより方法はないのではないかと。 ・ノーマディアは現実的に不可能である。どれぐらSNSや動画視聴、ゲームなどを控えられるかが現実的。適切な言葉はないだろうか。 ・部活動の地域移行という言葉は適切ではないのではないかと。一度、中学校では部活動をしないという区切りをつけて、新たに町として地域クラブを立ち上げるということを保護者にも地域にも周知すべきではないか。また、地域クラブは文化系も含めて多様な選択肢があることが望ましい。
	②基本的な生活態度の確立（挨拶）	㉒挨拶の指導を徹底している（いつでも、どこでも、だれとでも、目を合わせて）	⑬お子さんは、家庭や地域でしっかりとあいさつをしている	⑱あいさつがしっかりとできている（いつでも、どこでも、だれとでも、目を合わせて）	4.1	3.8	4.2	4.3	A			
	③基本的な生活態度の確立（時間）	㉓時間を守るよう指導を徹底している		⑲学校で時間を守って生活している	4.3	4.2		4.3	A			
	④基本的な生活態度の確立（清掃）	㉔無言清掃で時間いっぱい清掃するよう指導を徹底している		⑳無言清掃で、時間いっぱい一生懸命、掃除をしている	4.2	4.3		4.0	A			
	⑤基本的な生活態度の確立（メディア）	㉕メディア（テレビ、タブレット、スマホ等）の適切な使い方について、指導している	⑮お子さんは、家庭で作成したルールを守り、テレビやタブレット、スマホなどけじめをつけて、見たり使ったりしている	㉒家庭で作成したルールを守り、テレビやタブレット、スマホなどけじめをつけて、見たり使ったりしている	3.4	4.3	2.8	3.1	C			
	⑥部活動	㉖生徒が自主的に活動し、挑戦する楽しさや喜びを味わうことのできる部活動の運営を心がけている	⑯お子さんは、部活動に意欲的に取り組んでいる（お子さんが部活動に所属している人のみ）	㉓部活動は充実した活動になっている（部活動に所属している生徒のみ）	3.9	3.7	4.1	3.8	B			
(5)信頼される学校	①信頼される教師集団	㉗保護者からの相談・要望に対し、誠実な対応を行っている また、生活指導上の問題点等については、保護者との情報共有を迅速、かつ、適切に行っている	㉑学校は、保護者の皆様からの相談・要望に対し、誠実に対応している	㉒先生は困ったときには、親身になって、相談に乗ってください	4.2	4.7	4.2	3.6	A	A ○達成している状況である。 ・(5)①「信頼される学校」において、教職員、保護者の数値は上がっているが、生徒の数値は前期に比べて、約0.4ポイント低くなっている。学年間の数値のばらつきも大きい。	・3年生については、前期に比べて0.2ポイントあがっている。2年生については、前期に比べて約1ポイント数値が下がっている。特に低い評価をした生徒が数名いる。しっかりと生徒と向き合い話を聴き、真摯に対応する姿勢を教職員で再確認する。	・3年生は学級を2分割した成果がよくできているのではないかと。保護者評価の数値も上がっている。教員と生徒との良い関係が築けているのではないかと。数値は母集団が小さいので、大きく変動しやすい。評価の低かった生徒の話をしっかりと聴きたい。
	②積極的な公開、情報提供	㉘学校HPや通信等を通じて、保護者・地域への積極的な情報公開・提供に努めている	㉒学校は、HPや通信等を通じて、保護者の皆様に教育活動内容を積極的に公開し、わかりやすく伝えている	㉓学校は、HPや通信等を通じて、保護者の皆様に教育活動内容を積極的に公開し、わかりやすく伝えている	4.3	4.6	4.0	4.2	A			
	③学校満足度		㉒八千代中学校の教育に満足している	㉒八千代中学校が好きである	3.8		3.9	3.7	B			
(6)働きがいのある学校	①学校組織運営	㉙「学校経営方針」のもと、組織の一員として、密な情報交換を行いながら、能動的・創造的に教育活動にあたることができている			4.1	4.1			A	B ○概ね達成している状況である。 ・(6)②「勤務時間の適正化」④「ワーク・ライフ・バランス」については、教員評価の数値が低い傾向にある。	・超過勤務については、個人差が大きい。良い教育をしようとするだけでも手間暇がかかる。保護者と連絡をとろうとすれば、どうしても勤務時間が遅くなる傾向にある。事務仕事を効率よく進め、生徒と向き合う時間を作りたい。 ・若い教員を中心にタイムマネジメントを意識してできるだけ効率的に業務を行うおうとする職員は増加している。 ・年次休暇の取得についても、個人差が大きい。2学期からは学期はじめに計画を立て、学期に2日程度、取得していくよう求めた。	・一生懸命に頑張っていたいたくのは、大変ありがたいが、教員がダウンしては何にもならない。 ・教員もお互いに仲間として横にしっかりと繋がること、みんなでカバーし合える信頼感が大切。生徒も先生方の姿をよく見ている。 ・管理職にも何でも言える環境をつくっていくこと大事。そのためにも、声かけ、進捗状況の確認が必要。みんな見えてもらっているという安心感があればよい。
	②勤務時間の適正化	㉚定時退勤日の完全実施、タイムマネジメントを意識した効率の良い職務の遂行に努めている			3.2	3.2			C			
	③明るく風通しの良い職場づくり	㉛あらゆるハラスメントのなく、風通しの良い職場環境である			3.9	3.9			B			
	④ワーク・ライフ・バランス	㉜年次休暇を計画的に取得している			3.4	3.4			C			